# はじめに

新潟大学積雪地域災害研究センターは，新潟県を中心とする積雪地域に特有な自然災害を総合的に研究し，それに対処するために昭和53年度に地盤災害研究，雪氷技術研究，地水系保全研究の３研究分野をもって発足し，学術的研究を推進している。地盤災害研究分野は，理学部付属研究施設を受け継ぎ，地すべり，土石流，地盤沈下，地盤の液状化など多方面な研究を行ってきた。とくに，新潟県では地すべりは全国一の頻度で発生しており，中でも融雪期に多発する特徴を示す。新潟県では地すべりの研究が必要であるとの社会的要請から，昭和53年４月に10年の期限つきで「地すべり研究分野」が設置され，平成３年３月をもって廃止となった。その間，地すべり危険地の予測や地すべり発生機構の解明などの研究に成果を上げることができた。

最近の地すべりを含む斜面災害による被害が増加している中で，これまでの地すべり研究分野の行ってきた過去10年の研究成果を，ここに第１部「地すべり研究分野のあゆみ」として紹介し，今後の研究の発展の足がかりとしたい。

地すべり研究分野の廃止に伴い，積雪地域災害研究センターの将来計画を再検討することになり，まず雪と泥による斜面災害を研究する分野として，雪泥流研究分野を平成３年度から発足させた。引き続き，災害研内に将来計画のためのめ委員会を設置し，将来計画を立案することとした。折りしも，平成３年には大学設置基準，大学院設置基準が改正され，新潟大学の教養部，各学部，大学院の改革が推進されることとなった。災害研もこれらの改革と同調して，従来の研究・教育を点検・評価し将来計画を立てることにした。この号には地すべり部門のみならず，すべての研究分野の職員の教育，研究活動をとりまとめ，第２部「積雪地域災害研究センターの現状と展望」とした。従来，研究年報には，積雪地域災害研究センターの現状を簡単に紹介するために概要を掲載しているが，「積雪地域災害研究センターの現状と展望」と重複するので，本号では概要を省略した。

今後も災害研の研究・教育，社会への貢献などを的確に評価・点検しつつ，積雪地域災害研究センターの発展を期していく所存である。関係各位のご批判，ご鞭撻をお願いする。

新潟大学積雪地域災害研究センター長

**青　木　　滋**